

市長メッセージ（平成31年（2019年）1月1日）

『 新年のごあいさつ 』

明けましておめでとうございます。

今年は“いのしし年”、さてどんな一年になるのでしょうか。

去年は酷暑に長雨、台風に地震と自然災害に泣かされました。その傷跡がまだまだ消えない新しい年、祈るのは「どうか災害が少ない一年でありますように」。

元号が変わります。30年間なじんだ「平成」。新しい名前は何になるのでしょうかね。国民に寄り添い、優しく、あたたかい姿で30年間を駆け抜けられた天皇、皇后両陛下には「ゆっくりお休みください。本当にお疲れさまでした」とお伝えしたい気持ちでいっぱいです。

宝塚市は手塚治虫記念館のリニューアルを控え、また来年完成の市立文化芸術センターのオープンに向けて山場を迎えています。今春には市役所横に宝塚健康福祉事務所、阪神シニアカレッジが新しい姿で動き始めます。ソフト面では10月からいよいよ、幼保無償化が始まりますが、自治体の負担は重く、保育の質の低下を招いてはならないので慎重にしなければと心しています。少子高齢化はますます深刻度を増していますが、幸い本市は元気な高齢者が多くいらっしゃいますので、健康寿命を伸ばす取り組みを行っていきます。

子ども施策はきめ細かくこれからも充実していくよう努力します。“命”を大切にすまちの実現には、医療と介護の連携に力を注ぐことが肝要だと思っています。

住みやすいまち、皆に愛されるまちづくりは、景観を守り、人々が互いに助け合える“やさしいまち”になるように、そして商業や企業が元気であり続けられるように、私も皆さんと共に“いのしし年”らしく猛進してまいります。

皆さまにとって幸多い年となりますように。